

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2007～2008  
課題番号：19520496  
研究課題名（和文） 日本の外国語教育改革：韓国の第七次教育改革と欧州言語共通参照枠を中心に  
研究課題名（英文） Reform in Foreign Language Education in Japan: The Seventh National Curriculum in Korea, and the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) in EU

研究代表者  
樋口 晶彦 (HIGUCHI AKIHIKO)  
鹿児島大学・教育学部・教授  
研究者番号：20189765

研究成果の概要：

（平成19年度）

平成19年度の当初の研究計画は、（1）国際英語論・英語の現状と今後の展望、（2）EUのCEF及び教育支援プログラムの研究、そして（3）韓国第七次教育課程の研究の三大項目を挙げていた。（1）と（3）の研究はほぼ予定通りに遂行できたが、（2）のEUでの実地研究は、公務の関係で実現が不可能だった。以下にその研究成果の概要を述べる。

- ・ 国際英語論・英語の現状と今後の展望に関しては、2007年4月に21世紀の英語科教育（開隆堂出版）を上梓した。さらに、その中の第一章で16ページを費やして、このテーマに関して詳細に述べた。
- ・ 韓国での実地調査に関しては、2007年9月11日～14日まで韓国の大田、論山、儒城の公立初等学校三校の英語授業を実地調査した。さらに、同年11月26日～28日はソウルの公立初等学校、私立初等学校において英語授業、CBI(Content Based Instruction)導入の英語授業を実地調査した。
- ・ 韓国第七次教育課程に関しては、2007年11月17日 JACET 東アジア外国語教育研究会において口頭発表した。（発表タイトル：韓国の初等学校英語教育－第七次教育課程と忠清南道の現状－）
- ・ さらに2008年2月、鹿児島大学附属小学校において関連する口頭発表をした。さらに、この発表内容を2008年3月、鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編第59巻に論文として発表した。
- ・ その他の外国語教育政策に関する研究活動として、2007年11月3日～11日までカリフォルニア州教育庁（サクラメント市）における英語教育担当者3名とのインタビューを行った。
- ・ その後、University of Maryland のNFLC(National Foreign Language Center)へ出向いてCAL(Center for Applied Linguistics: アメリカ応用言語学センターWashington D.C.)、DI(Department of Intelligence)からのスタッフを含む Briefing へ出席した。これは、翌年

20年度のアメリカでの研究の布石として先方の担当者の先生方との打ち合わせをも含めるものだった。

- ・ 翌年2008年2月には京都大学での多言語教育の国際シンポジウムにも参加した。その結果、多言語教育に関する様々な意見が存在すること。そして特に大学における多言語教育の重要性が国力に大きく関わっていることを再認識した。

(平成20年度)

平成20年度の研究計画は、(1) 米国における実地調査、(2) 韓国修学能力検定試験の研究、(3) 日本の外国語教育政策の研究、そして(4) 国際比較における日本の外国語教育改革の研究の四つの研究の柱を中心として当初計画していた。以下にその研究成果の概要を述べる。

- ・ 米国における実地調査に関しては、米国の外国語教育政策研究のために、2008年7月29日－9月8日までUniversity of Marylandにおいて資料収集、文献研究論文執筆を行った。その間、Washington D.Cのアメリカ応用言語学センターにおけるDirector Dr. Donna Christian 氏との2時間ほどのインタビューを実施した外国語教育政策に関する論文、資料も多く収集できた。
- ・ 論文2編を提出して、9月中旬にはJACET大学英語教育学会全国大会(早稲田大学)において前年度に実地調査した「韓国初等学校英語教育」に関する口頭発表を行った。
- ・ 10月14日－10月20日までMinnesota州のSt. Paul市において開催されたイマージョン教育国際学会に出席した。そこでDr. Myrian Mett氏とのインタビューを通してイマージョン教育の諸問題、可能性などを聞き出すことが出来た。さらにイマージョン教育に関して同学会の分科会、全大会において貴重な発表録音、資料の収集ができた。
- ・ 韓国修学能力検定試験の研究に関しては、韓国の研究者より関連資料を入手したさらに、12月5日－7日まで、ソウル大学での韓国応用言語学会に参加した。Dr. Park Mae-ran氏から韓国イマージョン教育の研究開発は大変貴重な情報であった。日本におけるイマージョン教育の可能性、問題点等を研究する必要性を痛切に感じた。
- ・ 2月9日－11日まで東京British Councilでの資料、文献収集、さらに静岡の加藤学園のイマージョン教育、Bilingual Educationの授業を視察した。ミネソタ州でのイマージョン教育国際学会でお会いしたDr. Bostwic氏との再会を通じて加藤学園のイマージョン教育を話し合えたことは今後の研究への大きな一歩だった。

上記のような積極的な活動を通して、二年目の研究を終えることが出来た。概ね当初の計画を遂行できたものの、EUの外国語教育政策,CEFRを含めてまだまだ取り残した部分は少なくないので新たに科研費の申請を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2004年度			
2005年度			
2006年度			
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：外国語教育政策

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教育政策、韓国第七次教育改革、EU の外国語教育政策、CEFR(欧州言語共通参照枠)、米国の外国語教育政策、NFLC、アメリカ応用言語学センター、イマージョン教育

## 1. 研究開始当初の背景

戦後、英語は世界に拡散して **New Englishes** と呼ばれる多くの変種が誕生した。その結果、学習言語としての英語の問題が 1970 年代より活発に議論されてきた。英語はもはやイギリス英語、アメリカ英語という範疇では捉えにくいのが現状である。

そうした現状において英語を取り巻く世界も変化してきた。例えば、1997 年度始まった韓国の第七次教育改革における初等学校英語教育の正課としての導入や EU が近年取り組んできた言語政策がそうである。特に 2001 年に欧州評議会が提出した欧州言語共通参照枠(CEFR)や教育支援プログラム、**Socrates, Youth, Tempus** などが EU の複言語主義と共に注目された。(Council of Europe, 2001)、(吉島、大橋、2004)

アメリカ合衆国においてもカリフォルニア州の二言語教育の廃止や連邦政策 **No Child Left Behind (NCLB, 2001)**法の制定、さらにアメリカ外国語教育評議会(ACTFL)の **The National Standards for Foreign Language Education (ACTFL, 1996)**などは注目に値する。こうした政策の下でアメリカでは **Two-way immersion, One-way immersion** などの研究の進展、**World Languages** 担当教員研修の在り方、安全保障としての戦略的言語政策も進行中である。

こうした状況の中、筆者は文部科学省の **SELHi(Super English Language High School)**企画評価委員を務めて **SELHi** 指定校の実地調査やその指導に従事してきた(2002 年度より)。さらに県内の高・大連携として鹿児島市武岡台高等学校への出前授業にも従事してきた。その結果、高等学校だけに特化した英語教育だけでは我が国の英語教育の発展に限界を感じるようになった。

換言すれば、小・中・高・大も含めた系統性のある英語教育を教授、評価、到達目標の全てを含めた一貫性のあるカリキュラムを構築する必要を感じるようになった。さらに、小学校英語教育導入に鑑みてイマ-

ジョン教育 (**One-way, Two-way**) を担当教員研修も含めて研究する必要も感じるようになった。

## 2. 研究の目的

本研究の当該年度における主たる研究目的は以下のように要約できる。

- (1) 韓国の初等学校英語教育に関する研究(授業、国定教科書、指導方法、評価法、教員研修の内容などの研究)
- (2) 韓国の修学能力検定試験の問題形式、問題内容、評価方法などの研究
- (3) 米国の外国語教育、異文化理解教育、さらに教員研修の内容と実態の調査。(CAL の最新の調査資料を中心に)
- (4) California 州教育庁における **LEP** 生徒に対する英語教育の指導方法、評価方法、さらにサクラメント郡における **ESL, LEP** さらに外国語教育における教員研修の内容、実施状況の調査。
- (5) 我が国におけるイマージョン教育の可能性、問題点に関する研究。
- (6) EU の言語政策制度や教育支援プログラムの調査。特に **Socrates, Youth, Tempus** の教育支援プログラムの実情と評価としての言語テストの実態調査。

以上のような目的を遂行することにおいて日本の外国語教育政策の改革へ向けた研究を実施することを第一義的目的とした。

## 3. 研究の方法

研究方法としてこの 2 年間取り組んできたことは、主に (1) 文献研究、(2) 韓国初等学校への実地調査研究、(3) アメリカ合衆国メリーランド大学での資料収集、論文執筆、同 **NFLC(National foreign Language Center)**での研究、(4) カリフォルニア州教育庁、アメリカ応用言語学センターでのインタビュー、資料収集、(5) 国内、国際学会

への出席、口頭発表、及び論文発表 などを中心として実施した。

#### 4. 研究成果

(平成19年度)

- (1) 国際英語論・英語の現状と今後の展望に関しては、2007年4月に21世紀の英語科教育（開隆堂出版）を上梓した。
- (2) 韓国での二回にわたる初等学校、English Villages の視察、調査。（忠清南道の公立初等学校英語教育三校の視察、京畿道の私立初等学校のイマージョン教育の視察）（9月実施済）。
- (3) 米国 California 州教育庁（サクラメント市）における言語教育担当者達とのインタビュー、LEP Children に対する英語教育の調査。（11月上旬実施済）
- (4) University of Maryland (NFLC)主催の外国語教育政策の Briefing への参加（Director Dr. Ingold、主任教授 Dr. Oxford, FLES の Dr. Met, さらに U.S. Department of Intelligence, CAL (Center for Applied Linguistics)の言語政策担当者たちとの討論）（11月上旬実施済）
- (5) 2007年11月17日 JACET 東アジア外国語教育研究会において口頭発表した。（韓国の初等学校英語教育－第七次教育課程と忠清南道の現状－）（西南学院大学学術研究所）
- (6) さらに、同年11月26日－28日はソウルの公立初等学校、私立初等学校において英語授業、CBI(Content Based Instruction)導入の英語授業を実地調査した。
- (7) 2008年2月、鹿児島大学附属小学校において関連する口頭発表をした。さらに、この発表内容を2008年3月、鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編第59巻に論文として発表した。
- (8) 翌年2008年2月には京都大学での多言語教育の国際シンポジウムにも参

加した。その結果、多言語教育に関する様々な意見が存在すること。そして特に大学における多言語教育の重要性が国力に大きく関わっていることを再認識した。

(平成20年度)

- (9) 米国の外国語教育政策研究のために2008年7月29日－9月8日まで University of Maryland において資料収集、文献研究、論文執筆を行った。
- (10) CAL (Center for Applied Linguistics) での所長、Dr. Christian 及び JNCL (Joint National Committee for Languages and the National Council for Languages and International Studies) の計画立案担当、Lenker 氏などとのインタビュー、文献、資料収集（8月上旬実施済）
- (11) 論文2編を提出した。9月中旬には JACET 大学英語教育学会全国大会（早稲田大学）において前年度に実地調査した「韓国初等学校英語教育」に関する口頭発表を行った。
- (12) Minnesota 州 St. Paul 市において開催された CARLA (Center for Advanced Research on Language Acquisition) 主催の2008年度イマージョン教育国際学会参加（10月中旬実施済）。そこで Dr. Myrian Mett 氏とのインタビューを通してイマージョン教育の諸問題、可能性などを聞き出すことが出来たさらにイマージョン教育に関して同学会の分科会、全大会において貴重な発表録音、資料の収集ができた。
- (13) 韓国修学能力検定試験の研究に関しては、韓国の研究者より関連資料を入手した。さらに、12月5日－7日まで、ソウル大学での韓国応用言語学会に参加した。Dr. Park Mae-ran 氏から韓国イマージョン教育の研究開発は大変貴重な情報であった。日本におけるイマージョン教育の可能性、問題点等を研究する必要性を痛切に感じた。
- (14) 2月9日－11日まで東京 British Council での資料、文献収集、さら

に静岡の加藤学園のイマージョン教育、Bilingual Educationの授業を視察した。Dr. Bostwic氏との再会を通じて加藤学園のイマージョン教育を話し合えたことは今後の研究への大きな一歩だった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(平成20年度)

- ① 伝達重視型英語教育の再考－Magnan(2007)からの示唆－ 樋口晶彦 著(単著) 鹿児島大学教育学部研究紀要 第60巻 p. 1-14 (査読無し)

(平成19年度)

- ② 日本の外国語教育改革－韓国の第七次教育改革とヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の理念から 樋口晶彦 著(単著) 鹿児島大学教育学部研究紀要 第58巻 pp. 1-26 (査読無し)

- ③ 韓国の初等学校英語教育－第七次教育課程と忠清南道の現状－ 樋口晶彦 著(単著) 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 第59巻 2008年 pp. 127-141 (査読無し)

- ④ 最近の韓国初等学校英語教育事情 樋口晶彦 (単著) 英語教育 Vol 60-3 2008年度 第3号 開隆堂出版 (査読無し)

[学会発表] (計2件)

(平成20年度)

- ① 韓国の初等学校英語教育の現状と課題(シンポジウム) 樋口晶彦、木村祐三、清永克己、木下正義 大学英語教育学会(JACET)全国大会 (早稲田大学) (2008年9月13日)

(平成19年度)

- ② 韓国の初等学校英語教育－第七次教育課程と忠清南道の現状－ 樋口晶彦

大学英語教育学会(JACET)東アジア外国語教育研究会 (西南学院大学学術研究所) (2008年11月17日)

[図書] (計1件)

- ① 「21世紀の英語科教育」 樋口晶彦・島谷浩 編著 開隆堂出版 2007年 全295頁

[その他]

- ① 鹿児島県小学校英語教育研究会、口頭発表(韓国の初等学校英語教育から見えるもの)(鹿児島大学教育学部附属小学校) (2008年2月)

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

樋口 晶彦 (HIGUCHI AKIHIKO)

鹿児島大学・教育学部・教授

研究者番号：20189765

(2) 研究分担者

ロバート ファウザー (Robert J. Fouser)

鹿児島大学・教育センター・准教授(現ソウル大学教育学部准教授)

研究者番号：00278483

(3) 連携研究者

なし